

写真は私の師が精入れ致しました普賢菩薩の像と同様の 108 の数珠と腕珠であります。座禅、絵を描く時を含め、ほぼ身に着けている大事なものです。

これをしていると、精進に励み、俗物になってはならないと気が引き締まります。多くの画廊様と話しましたが、俗物の方が、非常に多くいるように感じました。

うちは、契約画家しかやらないとか、何か自分たちは特別の世界の人間だと勘違いしている方が非常に多い様に思いました。それは、画家で先生様と扱いされている人間も同様だと感じます。所詮、たかが、画家なのです。Queen、フレディマーキュリーとは違うのです。

画廊もセックスピストルズの「ロックン・ロール・スウィンドル」の歌詞の、EMIやA & Mではありません。たかが、一画廊なのです。ほとんどの人たちが、何ら興味もないその他大勢に過ぎなのです。

そしてたかが、絵描きなのです。先生と呼ばれ舞い上がっている人が多いですが、私は、そう呼ばれるのが嫌ではありません。その程度で喜んでいるのでは、底は知れています。仏陀の手のひらで踊る猿です。

座禅、写経に比べれば、絵を描くことなど、大したことではありません。わずか、2年程余りでここまで評価されるようになりました。これは、座禅、写経が物凄い大きな潜在能力を引き出しております。この文章でもありますように、私の大好きな聖闘士星矢のバルゴのシャカはほとんど、目を閉じ、座禅をしています。これは、常に一つの感覚を遮断し、感覚【小宇宙】を増大し、阿頼耶識に辿り着くためです。だから、私も常に半眼で座禅を毎日、組み、108 の数珠を身に着け感覚を増大の精進をしています。座禅は本当に奥深く厳しい修行です。1時間組むだけで、身体に相当な負担がかかります。そもそも姿勢に無理が相当かかるからです。

フェニックスの一輝が、シャカと対峙したとき、その答えはお前が教えてくれたと話しています。目が見えない訳ではないのに、常に目を閉じているのは、感覚を高めるためだと。

だから、あえて、六感を消してもらったと、そうでもなければ、神に近いお前に勝つことなど不可能だと、それ位、感覚を磨くことは、大事だということです。

私の師も似たようなことを話しておりました。多くの画家や画廊は勘違いいたしていますが、たかが、絵描きなのです。私が目指しているのは、ライブ・エイドのQueenのように希望、喜び、感銘を与えることが出来るように精進し、悟りを開くことが、最高の一枚に辿り着けると考えています。

あくまでも私の意見です。

言葉足らずはご容赦ください。

柿本英雄